

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2016
vol.26



創立 25 周年に寄せて

和歌山大学理事（産学連携・国際交流）
副学長 呉 海元

2015 年 4 月より和歌山大学の産学連携・国際交流担当の理事を拝命し、国際教育研究センター（IER）長を務めることになりました。

管理職の経験がほとんどない私ですが、1984 年中国西安交通大学情報制御工学部を卒業、1987 年同大学院を修了しました。偶然、入学した学科の第 1 外国語は日本語でしたので、大学生として「あいうえお」から日本語の勉強を始めました。博士前期課程修了後、同大学で教員として 3 年間勤め、1992 年から 1996 年まで大阪大学大学院に留学しました。

博士後期課程在学中、授業料を免除され、KDD 財団の奨学金も頂いたおかげで、研究に専念できる状態で工学博士の学位を取得しました。1996 年から 6 年弱、京都工芸繊維大学で助教として勤務し、2002 年から和歌山大学にお世話になっております。今後、このような複数の国と大学を経て得られた経験を生かして、和歌山大学国際教育研究センター（IER）の教職員一同、力を合わせて和歌山大学のグローバル化に貢献しながら、和歌

山市・和歌山県の国際交流に貢献し、日中友好の懸け橋になりたいたいです。

更に振り返りますと、2004 年の春、呉研の初めての博士後期課程に進学した学生（華春生氏）は、中谷さんをはじめ、WIN コンコードから下宿などの生活面に大変お世話を頂きました。2005 年から彼はロータリーの奨学金も頂きました。両方のご支援のおかげで、華春生氏は在学中の研究成果により、3 つの有名な学術論文賞と和歌山大学学生賞（旧学長賞）を獲得しました。彼は和歌山大学の博士号を取得した後、大阪大学のポスドクを経由し、2012 年から中国科学院瀋陽自動化研究所の教授になりました。指導教員として WIN コンコードに深く感謝いたします。

もちろん、華春生氏だけではなく、和歌山大学の教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部の正規留学生、日研生、交換留学生を含む毎年 200 名前後の留学生に対して、長い間 WIN コンコードから大変お世話になっております。この紙面をお借りしまして、日ごろから和歌山大学の留学生に対して、生活支援、日本語教育支援、また就職支援を頂いていることにお礼を申し上げます。

グローバル化の時代に合わせて、海外から日本に来る留学生は年々増えてきています。今後とも、どうぞ引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



神様との近距離接触

蔣 莉（中国）

私は今年のお正月に和歌浦の玉津島神社で巫女を務めました。中国にいたときに巫女ということを知ったこともなく、むしろ経験しませんでした。今年、交換留学生として初めて日本でお正月を過ごしました。玉津島神社が外国人の留学生に巫女のアルバイトを提供してくれたおかげで、私は日本のお正月の習慣をいろいろ経験できました。

私が巫女を務めた玉津島神社は和歌山市屈指の古社です。社伝によれば、仲哀天皇の皇后息長足姫（神功皇后）が紀伊半島に進軍した際、玉津島神の加護を受けたことから、その分霊を祀ったのに始まるといいます。神亀元年（724年）2月に即位した23歳の聖武天皇は、同年10月に和歌の浦に行幸してその景観に感動、この地の風致を守るため守戸を置き、玉津嶋と明光浦の霊を祀ることを命じた詔を発します。これが玉津嶋の初見です。だから、玉津島神社は千年以上の歴史を持ちます。近世に整備された玉津島神社は、和歌の浦の名所として巡礼をはじめ大勢の人々が詣でるところとなり、現在においても当神社とその一帯は、和歌の浦の歴史的景観の核とも言えるものとされています。私はそういう歴史の長い神社で巫女の仕事をさせていただいたことをとても嬉しく思います。

毎朝9時から始まりますが、8時半に巫女の衣装、即ち白い上衣・緋袴に着替えます。着物や袴の着付け方で気をつける点は、「衿元を深く合わせて、衿も抜かずにきちっと着るように」と神職さんが言いました。白の上衣に緋袴というスタイルは1年中変わらないが、夏と冬では素材が違うそうです。服を着替えたあと、授与所の窓口にお守りやおみくじを配置します。参拝客への応対や祈祷用の御札を運ぶなど神職のお手伝いをして、参拝者にお守りを売ります。お正月一日から三日にかけての3日間は、どこの神社も大勢の初詣の人々で賑わいます。お守りやおみくじを売るのが業務の中心です。それに、巫女ならではの言葉づかいもあります。神殿に入った参拝者には「おめでとうございます。」お守りを渡す時と参拝者が帰る時には「ようお参りくださいました。」と挨拶します。神社では「ありがとうございます。」はあまり言いません。もちろん「いらっしやいませ。」も言いません。



普通の巫女の仕事内容以外に、三日の午後に玉津島神社の新年献詠歌会に観衆として参加しました。これは、和歌の神様として崇められている玉津島神社のご神前で短歌を詠み上げるという行事です。参加した人は、新春にちなんだ献詠歌を短冊に書いて持ってきて次々に読みました。初めて歌会ということを知りました。もちろん初めて経験しました。だから、歌会は私にとって新鮮でした。それに、日本はクリスマスやハロウィーンなどの西洋祝日も大人気ですが、伝統行事もよく行う国です。これを思うと、日本社会が違う文化に寛容な態度に感心します。

今回の巫女の仕事によって、身近に巫女という職業を体験しました。実は、外国人の私から見れば、巫女は人間と神様のあいだの懸け橋だと思います。巫女は人間の願うことと敬虔な気持ちを神様に伝えられると思います。だから、毎日神社に入って二礼二拍手一礼をしていた参拝者を見て、私は心の中で「彼たちの祈ることを実現してください。」と神様に祈ります。巫女であることで、毎日神様に感謝する気持ちを持っています。朝来た時と夕方帰る時は必ず社殿の前でお参りをします。

一緒に神社で働いた野口さんはハワイへ留学する予定になっています。彼女は外国へ留学するが、逆に日本の伝統行事をもっと深く理解したい感情があると言いました。だから、新年のうちに帰国して神社で巫女になりたいがっています。たしかに、神社へ初詣するのは日本人の特有なものですから外国人の私にとっては新鮮です。それに外国に滞在する日本人にとってはふるさとの象徴だと思います。

神様、日本のいろいろな経験、ありがとうございました。

和歌山の世界遺産を学ぶ

高野山～九度山町

留学生たちは、2015年9月1日から9月2日の2日間にわたり、高野山と九度山町を訪れ、地域の人々と交流しながら和歌山の世界遺産について学習しました。また、この研修をより実り多いものにするため、出発前の8月24日、当団体事務所において、公益財団法人和歌山県国際交流協会常務理事中島紀生氏及び和歌山県教育庁文化遺産課大濱新氏を講師に迎え、参加予定者を対象に世界遺産入門セミナーを実施してフィールド研修の訪問先に関する理解を深めました。

留学生17名、スタッフ5名の計22名が下記の日程によりフィールド研修に参加しました。

参加した留学生の出身地は、中国8名、ベトナム2名、香港、韓国、グアテマラ、スイス、ロシア、マレーシア、アメリカ各1名です。

このフィールド研修では、NPO法人高野山異文化交流ネットワーク7名と九度山住民クラブ9名、合わせて16名のボランティアが参加され、高野山内の各施設の旧跡案内ガイドや手作り甲冑の着付け体験実習をさせていただきました。

ボランティア ガイドの感想

NPO 法人 高野山異文化交流ネットワーク
代表 松山典子

「世界各国からの留学生が、和歌山大学で学ぶ間に、地域の魅力や伝統文化に触れる機会を持ってほしい」という本企画の目的に貢献したく、参加させて頂きました。高野山に関する事前学習と留学生の皆さんの日本語力と知識のお陰で、実際のガイドはスムーズに運びました。親睦会で行なうゲームを想定し、キーワードを押さえながらガイドしましたが、私たちガイドは、ゲストがどの程度の内容を理解し、案内箇所をどのように評価したのかを直接聞く機会がめったにありません。しかし、今回は親睦会で直接コメントを聞くことができ、しかも高野山の魅力をしっかり捉えたコメントを聞くことができ、担当ガイド一同、大変感動しました。異文化を理解し、交流を深めていく必要性を改めて感じた2日間でした。九度山地域の人との連携も上手く図られたと思います。和歌山、日本に対する理解が深まる貴重な体験になったことを切に願っています。

9月1日（火） 和歌山市～高野山	9月2日（水） 高野山～九度山～和歌山市
和歌山市発～高野山 中の橋下車 ① 奥の院（ガイド案内） ② 伽藍～③霊峰館（ガイド案内） ④ 金剛峯寺（ガイド案内） 蓮華定院 チェックイン～休息 ⑤ 交流会 入浴～就寝	蓮華定院 朝勤行 ⑥ 女人堂見学 女人堂～大門（ガイド案内） ⑦ 丹生都比売神社見学 甲冑体験（着付け）NHK 取材 ⑧ 勝利寺 写真撮影 九度山町発 和歌山市 帰着



紀州九度山真田隊のおもてなし
九度山住民クラブ
(紀州九度山手作り甲冑真田隊)

まず、第一印象です。皆さんしっかりしているし、日本語も上手だし、敬語の使い方も完璧でした。何より笑顔がよかったです。

交換留学生として日本に、そして和歌山に来ていただいていることを嬉しく思っています。そして甲冑、姫衣装、そして忍者衣装を身に着けての九度山探索いかがでしたか。

暑い中、山道・坂道・急階段の行程なので大変でした。短時間で交流させてもらったのですが、私たちの不慣れな対応にとまどわれたことでしょう。でも、一生懸命の気持ちで皆さんにおもてなしをしたことをご理解ください。なにぶんにも、お越しいただく連絡を受けた後、不慮の火災で皆様に着けていただく衣装が灰になってしまいました。そこで、急遽みんなで新しい衣装を作成して着ていただいた次第です。寸法の合わなかった方もいらっしやったようですが、ご容赦ください。これからも日本で、そして和歌山で良い経験、学習を積んでください。



参加留学生の感想

教育学部 日本文化研修生
Irintceeva Dina Borisovna (ロシア)

この一年間、高野山に三回行ったことがあります。この三回は皆印象的でとても楽しかったです。一回目行ったのは、去年の十月ごろでした。他の留学生と二人で高野山を見に行こうと約束して、電車に乗って行ったのです。高野山までの道は三時間ぐらいかかりました。途中で電車の窓から見た景色を覚えています。緑の繁る森の山が堂々と聳えて、自然の力を感じさせました。



高野山に着いてから、私たちは直接奥の院まで行きました。墓がたくさんあることに驚きました。雨上がりの森は涼しくて爽やかでした。高い杉が古くて、空まで上がっていたようでした。私は高野山の壮大な自然に感動しました。夜になると、闇の中に灯籠が不思議に光っていました。夜の高野山は神秘的で、恐ろしい感じがしました。この一回目は高野山と知り合いになりました。

それから、今年の六月、コリンズ先生の学生と見学に行きました。彼らは英語で高野山についてのプレゼンをしてくれました。私たちは一日中高野山を歩き回って、たくさんの所に行きました。その後、六時ぐらいに和歌山へ帰りました。その時、高野山をもっと知ることができました。

三回目は皆さんと一緒にいった今回で、一番楽しくて充実していました。奥の院と壇上伽藍と金剛峯寺と霊宝館という高野山の中心を見学したり、楽しんだりしていました。ガイドさんがそれぞれについて親切に詳しく説明してくれました。非常に勉強になりました。高野山が守っている奥深い秘密に触れたような気がしました。その上、宿坊に泊まることを体験しました。高野山の神秘的な雰囲気にすっかり入り込みました。夜五時ぐらいに瞑想してみて、朝のお勤めに参加しました。仏前に向かって読経を聞きながら自分の心を澄ましていました。静かで心が落ち着いていました。

帰る日、大門に行ってから丹生都比売神社を見学しました。その後、九度山で甲冑と忍者の衣装を着る体験もありました。今回の高野山行きは楽しくて賑やかで友情に満ちていました。皆さんと話し合ったり、笑ったり、一緒に食べたり、ゲームをしたりしていました。

WIN コンコードの皆さん、この高野山の旅行ありがとうございました。和歌山に住んでいて、高野山という特別な場所に三回行く機会があったということで、自分がラッキーだと思います。高野山を馴染むようになりました。

私のロボット

ロバン マドレーヌ（フランス）

私は小さい時からロボットに興味を持っていました。6歳ぐらいの時に、ロボットに扮した男の人のロボットダンスを夏祭りの夜に見たことを思い出します。その人は、私と一緒に踊ってみよう勧めました。私は彼のギクシャクした踊りにとてもうっとりしていました。それが全ての始まりだったと思います。そして、8歳の時にロボット製造についての月刊雑誌の広告を見て、新聞販売店でこの雑誌を手に入れ、集め始めました。子どもの目からすると、ロボットが働く姿はちょっとした魔法のようです。

多くのロボット愛好家と同じように、アイザック・アシモフのサイエンス・フィクション小説が大好きです。この人は「ロボット工学三原則」を作り出したことで特に有名です。将来、ロボットを作るためにその興味深い原則を使うかもしれません。

ロボットについてですが、私は彼らが人間の手伝いをして、私たちは哲学や芸術、家族との団らんなどにもっと時間を費やすことができるようにして欲しいと思います。それでも私はほぼ完全に人間または動物に似ているロボットは好きではありません。ロボットは、人間がすることを補足するものでなければなりません。人間に取って代わるであってはなりません。航空機を、鳥を真似せずに開発することができたのと同じように、ロボットも同様に開発されなければなりません。しかし、外見が人間的であることに問題はないと思います。

私は人々がロボットについてどう思っているのか非常に興味を持っています。例えば、私はアメリカの映画ではロボットがしばしば人々に反抗するのに対し、日本の文化ではロボットがよくスーパーヒーローとして登場することがある事に気付きました。確かに、アメリカ人やヨーロッパ人にはフランケンシュタイン コンプレックスがあると思います。そのコンプレックスというのは創造物が創造者に逆らうことを意味します。

いずれにしても、私はロボット工学が偉大な未来を持っていると確信しています。私はこの進歩に貢献したいです。ロボット工学の未来を見るのが楽しみです。

和歌山大学のロボット研究室での半年間の研修のおかげで、ロボット工学と日本語について強く

なりました。就職してから、将来必ず日本に行きます。日本が大好きですから。日本のソフトバンク株式会社のアルデバランロボティクスで働くことが私の使命みたいなものだと感じるようになりました。さあ—どうなるかなあ—？

ウズベキスタンの紹介

ズライホ（ウズベキスタン）

どんな国？

ウズベキスタンの国名を知らなくても、シルクロードの国と言えばイメージできるかもしれません。シルクロードに位置した町々は、かつて東西貿易の中心でした。様々な民族が集まり、色々な言葉や知識、文化が飛び交っていました。今も多種多様な人々が集まる国です。

もしサッカーが好きな人なら、日本代表が何度か対戦したことのある国ぐらいの認識でしょう。中央アジア史に興味がある人ならば、世界遺産のサマルカンドやチンギス・ハンに攻め落とされた国といったことを思い浮かべるかもしれません。1991年9月に旧ソ連から独立しました。

どこにあるの？

中央アジアの中央にあります。中央アジア諸国は、カザフスタン・キルギス・トルクメニスタン・タジキスタン・ウズベキスタンの5ヶ国からなっています。ウズベキスタンは他の4ヶ国と国境を接する唯一の国です。南側はアフガニスタンとも国境を接しています。最近、環境問題で話題のアラル海が位置する国と言ったほうが分かりやすいかもしれません。



旅行出来るの？

観光客誘致にも力が入り、ビザ取得も簡略化し、

ウズベキスタン航空の日本からの直行便も定着しました。世界遺産や 4,000 を超える文化的・歴史的遺産、豊かな自然など観光の魅力がある国です。他の国では決して体験できない旅が出来る事でしょう。

物価は安いし、食べ物は美味しいです。サマルカンドやブハラ、ヒヴァといった世界遺産には一見の価値がありますし、日本にある出店が好きな人であればお土産に目移りして何を買って帰るか悩まされることでしょう。日本にいと目にする事があまりないイスラム文化を体験できるというだけでも貴重です。

ウズベキスタンの見所

・サマルカンド

サマルカンドは世界で最も古い都市の 1 つです。10 万年前に人類が定住した跡が見つかっていて少なくとも紀元前 100 年にはマラカンダという名で知られていました。ソグド人の帝国の都となつてからはアフロシャブと呼ばれるようになりました。また、14 世紀にはかのティムール大帝の都となりました。市内外含め数多くの建築物の美しいシルエット、細密な装飾、モザイク、そして青いタイルが、見るものを惹きつけます。



・ブハラ

ブハラの黄金期は 9 世紀でした。当時ブハラはイスラム帝国の中心地であり、中央アジアにおける貿易、英知の中心地でもありました。しかしその繁栄は、13 世紀モンゴル軍の侵攻により灰燼に帰してしまい、再び繁栄を得るまでには 16 世紀を待たなければならなくなりました。16 世紀シャイバニハンのもとで偉大なる宗教都市に発展したブハラは「聖なるブハラ」として、今日まで残る壮麗な建築物で輝き続けています。



・ヒヴァ

ヒヴァは、年間 300 日は晴天だというホレズム地方にあり、青空の下、町全体が巨大な博物館であるかのような佇まいを見せています。1969 年に



は町全体が「博物館都市」に、1990 年にはユネスコの世界遺産に登録されました。

街としては 900 年前ほどから存在していましたが、今日見られるような形になったのは 17 世紀に入ってからです。カラクム砂漠への出入り口として、また奴隷貿易の拠点として栄えました。ヒヴァの狭い路地を歩いていると、地元住民の姿を見ることができでしょう。この街は単なる博物館都市ではなく、今なお人々の生活が息づいている街なのです。

・タシケント

タシケントは、人口 200 万人以上を抱える中央アジア最大の都市です。中心街には中央アジア唯一の地下鉄が走り、シルクロードの風景とはかけ離れた、ソ連の一都市を思い起こさせるような景観です。



しかし街の歴史は長く、2000 年ほど前には街として存在していました。8 世紀頃からアラブ人の支配下に入ったと言われています。モンゴル軍による破壊の後、ティムール帝国、シャイバニ朝の下で復興を遂げました。現在はウズベキスタン共和国の首都として機能しています。

ウズベキスタンの基本データ

面積 44 万 7,400 平方キロメートル

(日本の約 1.2 倍)

人口 2,930 万人 (2014 年：国連人口基金)

首都 タシケント (Tashkent)

民族 ウズベク系 (78.4%)、ロシア系 (4.6%)、タジク系 (4.8%)、タタール系 (1.2%)

言語 公用語はウズベク語 (テュルク諸語に属する。但し、タシケント、サマルカンド、ブハラ等主として都市の諸方言はペルシア語の影響を強く受けている)。またロシア語も広く使用されている。

宗教 主としてイスラム教

政体 共和制

元首 イスラム・カリモフ大統領
(2015 年 3 月再選)

以上、ウズベキスタンについて説明させていただきました。ウズベキスタンの美しさをご自分の目で見て、ウズベク人の優しさを確かめに、ぜひウズベキスタンに来てください。お待ちしております。

新留学生紹介

于 妹婷（中国）

于妹婷と申します。中国の遼寧省から来ました。子供の頃から、日本に留学して日本企業に就職した親戚の影響で、ずっと日本に来たいと思っていました。そして、大学を卒業した後、インターネットで日本のテレビ番組やドラマなどを見て日本語を勉強しながら日本のことをたくさん知りました。そのうち、もっと日本が好きになって日本に来たい気持ちがさらに強くなりました。やっと 2 年前に日本に留学することができました。

最初の 1 年間は、おじさんの家に住んで日本語学校に通って楽しい日々を過ごしました。2 年目から一人暮らしを始めました。きっと寂しいと思ったが全然そうではなく進学やアルバイトで充実した生活を送りました。日本語学校で勉強した後、和大の研究生になり、その後 1 年間、担当教授のご指導の下で今年 4 月から大学院に進学しました。

大学院の生活は厳しいはずだと思いますが、将来、日本で就職するならば挑戦しなければならないと思います。日本の生活に慣れないと、中には苦しいと思って帰国する人もいると思いますが、そういう人に私の好きな言葉を送りたいと思います。「人生の中に意味のないことはない。絶対に笑えない時もあるけど、無理してでも笑っていれば楽しいことがやってくるはず！」国から離れて日本に来た以上は、目標を立て、夢が叶うため頑張るしかないと考えています。

マスニザ（マレーシア）

私の名前はマスニザです。マレーシアからの留学生です。クアラルンプールの出身です。日本にいる 4 年間でシステム工学を勉強します。私を含めて家族は 8 人で、両親と姉が 3 人、兄が 1 人、弟が 1 人です。趣味は絵を描くことです。

忙しい町に生まれた私の和歌山の最初の感想は、静かで山の背景も美しく、花見で見た桜もすごく綺麗だと思いました。初めて家族と離れて 4 年間の生活が始まりました。これから自分で料理と洗濯と掃除をしなければならないので、日本にいた間にもっと独立心を持ちたいと思います。

初来日で 3 月に来たばかりの私ですが、実は日本に興味を持ったのは 13 歳からです。その時、ある日本人の先生が日本語の基本を教えてくれて、クラスにいつも日本の文化と日本の美しい所を紹介してくれました。小さい時から言語が大好きなので、高校で日本語を勉強しましたが、まだ足りないしコミュニケーションもまだ出来ないから日本へ留学したいと思いました。その時の私は、色々な夢を持っておりました。今日本にいるのはまだ信じられないことだと思います。そして日本語の勉強だけではなく、和歌山大学で日本のトップ技術と日本のハイテク製品に対する理解も深めたいと思います。

また、留学すると将来の仕事に役に立つだけではなく、新しい経験になります。

将来は建築関係の仕事をしたいです。私は中国語が話せますけど、今はぜひ日本語を上手に話したいです。心配なことはもちろんありますが、これから絶対諦めずにずっと頑張ります。



ジェレミー（フランス）

私の名前はジェレミー、フランスから来ました。私はベルフォール・モンベリヤール工科大学（UTBM）で最終学年の学生として機械設計と工学を学んでいます。

私は異なった文化を体験してみたいのでここに来ました。日本の産業技術はよく知られており、もし私が日本のアニメが好きなることを付け加えるなら、そのことが日本へ来る動機となりました。

和歌山大学はこれまでも私たちの大学から何人かの学生を受け入れております。そして和歌山大学は私の研究分野で挑戦できる機会を与えてくれたので、ここに来ることができました。

私はフランスの中西部に近いミッセと呼ばれる小さな町の出身です。その地方で私の研究の一部を行っておりました。現在、私はフランスで最も東部にある大学 UTBM の学生です。

私には 18 歳と 15 歳の弟がいます。父は美容師で母は電話交換手です。

これまでに経験した和歌山は好きです。これから経験するたくさんの和歌山と日本の事についても大いに期待しています。

ジム（マレーシア）

はじめまして、ジムと申します。本当の名前は Noor Muazeem bin Nordin です。皆さん、この名前はどこの国の人名かご存知ですか。実はマレー語の名前です。ちょっと読みにくいのでジムとよばれています。

私の故郷はマレーシアの北の方にあります。町の名前はペルリス(Perlis) と言います。私の住んでいる所はあまり人気がありません。でも心の中にその故郷はずっと持ち続けています。

私の趣味はたくさんあります。例えば、旅行とか、映画鑑賞とか、歌を歌うとか、ゲームをするとか、サッカーをすることです。サッカーといえばネイマールを知っていますか。彼は私のアイドルです。もしチャンスがあれば、彼と会う事だけでなくサッカーと一緒にしたいです。

日本に留学している間に、いろいろな新しいことを学ぶことができます。例えば、日本人の時間を守るという常識を学ぶことだと思います。次は日本の文化について、侍に興味があります。浪人剣士という映画を見たことがあります。それは侍時代の物語でした。

私は日本に来たばかりなので、私の日本語はまだ上手ではありません。皆さん、私を助けて私の日本語能力を上げるために教えてください。

日本への留学に感謝しています。なぜならば、新しいものを見るだけでなく、日本人の態度にも注目しています。帰国するときは、その態度も国へもって帰りたいと思っています。

肖 堯（中国）

皆さん、はじめまして。肖堯と申します。中国の北京から来ました。今回、和歌山大学に入学できてたいへん光栄です。新生活についてはとても楽しみにしております。是非、有意義な大学生活を過ごせるように頑張ります。

僕は日本のドラマとか漫画などについて非常に興味を持っております。一番好きなドラマは「南極大陸」というドラマです。そのドラマを通じて、日本人の根性を感じました。国民が心一つにして、自分のことを考えずに困難にあたる。国家のため一生懸命やる姿に本当に感動しました。皆さん、もし時間があつたらこのドラマを見てください。こんな人々に支えられている日本は、例えどんな困難があつても無事に乗り越えられると思います。いろいろなドラマを見て、日本についての興味がどんどん深まった時に留学することが決まりました。日本のことを肌で感じたいと思っています。

私はバスケットボールが大好きです。毎週必ずスポーツニュースを読みます。

将来、日本に就職するつもりです。日本のことをもっと世界中にアピールします。

サリ（インドネシア）

私はサリ アストウテイです。インドネシアから来ました。私は高校の英語の先生です。最初は国立の高校で教えており、次に私立の高校で教えました。1年生と3年生の学生を教えました。寄宿学校なので、学生と毎日いっしょでした。とても面白かったです。

私は子供が大好きです。ですから日曜日もクラブで教えました。友達といっしょに数学と英語を教えていました。貧しい家の小学生の子供に教えてあげました。みんなとてもよく勉強しました。将来インドネシアに帰ったら、その勉強クラブをもっと発展させたいです。

私は去年 MEXT から奨学金をもらいました。TEACHER TRAINING 奨学金でした。大阪大学で日本語を勉強して、和歌山に引っ越しました。和歌山大学で教育のシステムと組織を勉強します。特に小学校の教育システムに興味があります。特に興味があるのは学校経営や人材育成です。そして先生

の能力や学生の達成度です。日本人の性格は素晴らしいと言われています。ですから小学校のシステムを研究していい子供たちに育て上げたいです。研究のデータを集めるために小学校を訪問し、インタビューをします。将来インドネシアの小学校で研究の結果を応用します。

ミリアム（フランス）

こんにちは、私はミリアム エンギュインです。ミミと呼ばれます。母はイタリア人で、父はベトナム人です。でも、私はフランス人です。

パリから来ました。日本の文化が好きですから日本へ来ました。特に茶道と料理と伝統的な衣装が好きです。半年で経済についていろいろ勉強させていただきます。将来、会計の国際的な会社で働きたいと思います。日本にいる間できるだけ様々なところを見に行つて、こんな面白い国をもっと知るようになりたいと望んでいます。日本語のレベルは高くないのに、和歌山の人は何回も助けてくれました。これから和歌山の親切な皆さんともっと知り合いになりたいです。本当にありがとうございます。

イム（韓国）

はじめまして、私はイム ソンミンと申します。韓国の釜山から来ました。まだ韓国から来たばかりなのでわからない部分も多いですが、いろんな方々に助けていただき、どんどん適応しています。得意と趣味はテコンドという韓国の伝統の武術です。長い期間やってきましたので、専門の方より自信あります。テコンドとは日本の空手と似ていると聞きましたので、日本で習ってみたいと思っています。

元々はアニメや漫画だけに興味がありました。去年、初めての外国旅行で日本に来て、日本の文化や生活の姿を経験し、韓国と似ているけれど全然違う日本に魅力を感じました。その経験をきっかけとして漫画やアニメだけではなく、興味の範囲をひろげました。韓国の大学の授業だけでは分からない、生々しい日本を感じたいと思ってこの留学を決めました。私は神社の静かな雰囲気が好きです。食べ物はほぼ口に合うけれど、から揚げとたこ焼きが特に好きです。今はいっぱい食べられるようになってうれしいです。

これから和歌山大学に来て、日本語の能力とともに日本文化への深い理解もちゃんとできるようになりたいです。いろんな人々と出会い、いろんなことを経験して、帰る時後悔のないように一生



懸命がんばって留学生活を楽しもうと思います。

アイン（マレーシア）

私はマレーシアからの留学生でヌル アイン ファルハナです。周りの人達は私をアインとよんでいます。これから4年間、和歌山大学で頑張つて勉強します。前から外国で勉強したいと思っていましたが、日本で進学するつもりはなかったです。奨学金をもらってクアラルンプールにある日本語の学校に入学しました。2年間で日本語だけでなく、日本の文化も勉強したり体験したりすることができました。勉強が難しくても新しいことを勉強するのは楽しいから、だんだん興味が湧きました。そのことがきっかけで私は今ここにいます。

外国人の中で日本といえば、すしとか着物です。場所ならば東京、大阪です。私もそうでした。和歌山のことを聞いたら、外国人はなかなか知りません。地理の授業によると、和歌山と言えばみかんしか分かりませんでした。実は、和歌山では他にまだ色々なものがあります。和歌山は近畿地方にあるから関西弁も使います。勉強した日本語とぜんぜん違います。関西弁は面白くて、日本人の友達と関西弁でしゃべりたいです。4年間日本にいて、日本の文化を学んだり体験したりしたいです。これから頑張ります。

エーヴァ（ハンガリー）

こんにちは、みなさん。私はデマルチェック エーヴァと申します。日本と同じように名字はデマルチェックで、名前はエーヴァです。友達によくエーヴァっちと呼ばれます。中央ヨーロッパに位置しているハンガリーから来ました。今年の2月にハンガリーの大学を卒業してから和歌山に来て、今は観光を専攻しています。最初はアニメや漫画がきっかけで、日本にもう16歳ころから興味を持って

います。文化をもっと知れば知るほど好きになりました。趣味は読書ですが、踊りとダンスもとても好きです。次の2年間でいろいろな出会いと新しい経験が待ち受けていると思います。

シャフィカ（マレーシア）

小さい時から、私たちには夢があるでしょう。私もあります。それは、日本に留学することです。

私はシャフィカと申します。マレーシアから来ました。私が日本に留学したい理由は、ドラえもんが大好きだからです。小さい時、ドラえもののアニメを見たのをきっかけで、日本の文化に興味を持っています。自信を持って日本の大学進学を続けます。マレーシアで2年間日本語を勉強して、いろいろな日本のことを学びました。その2年間は簡単ではなかったけれども我慢しました。やっと今、和歌山大学のシステム工学部の1回生になりました。正直に言って、和歌山の人々は優しく、温かい人々です。和歌山の町はにぎやかな通りはあまりなくて、私は気に入っています。一方、大学の生活は最初が大変だと思います。なぜならば、日本語で話す能力がまだまだ弱いからです。でも将来、日本語で話すのが慣れてくるはずだと信じています。だから、これからもっと頑張りたいと思っています。では、以上です。皆さんがよい生活ができるように。

孫 鶴鐘（韓国）

韓国から来た孫 鶴鐘（ソン ハクシヨング）です。私の地元は蔚山という所で、海がある韓国の有名な工業都市です。

子供の頃から海を見ながら育ったので、同じように海がある和歌山に来てとても嬉しいです。旅行が好きなので、今度交換学生として来る前にも日本の色んな所へ行ってみました。でもほとんど東京や大阪などの都会だったので、これからは都会じゃない所に行ってみようと思って和歌山大学に交換留学を申請しました。だから、これからどんどん WIN から貸してもらった自転車で色んな所に行ってみたいと思います。この前も和歌山市内を色々行ってみました、自然が綺麗だし生活も便利な所って感じがしてとても満足しています。

私が最初、日本に興味を持てたのは、やはり音楽、漫画、テレビ番組などのせいです。けれども、どんどん歴史などを勉強したら、最近は日本人そのもの自体にもっと興味が出てきました。韓国と日本が近代に違う道を歩いた理由を日本人と色んな交流をしながら理解し続けたいと思います。

ヘレン（オーストラリア）

初めまして。スチューワット ヘレンと申します。交換留学生として、西オーストラリアのカーティン大学から和歌山大学へ参りました。私の大学で日本語と物理を専攻しています。日本は物理の分野でとても優秀なのです。オーストラリアは日本と強い研究関係がありますので、いい組み合わせだと思って両方を専門することにしました。将来のキャリアで日本とオーストラリアの交流関係の力になろうと思っています。

私の故郷は西オーストラリアの州都のパースです。西オーストラリアは兵庫県と姉妹提携があります。パースにいた時、兵庫文化交流センターという所でアルバイトをして、オーストラリアと日本人の交流を促進していました。それで、日本の文化について学んで友達がたくさん作れました。

和歌山の山と紀ノ川はパースの景色と全然違ってとても綺麗で食事も美味しいです。

和歌山大学で興味深い音楽の部活に参加しております。半年の留学を頑張ります。

2015 年度 活動経過

4 月 5 日	新入生歓迎お花見
5 月 1 7 日	和歌祭り 参加
5 月 2 3 日	WIN コンコर्ट・ニュースレター 25 号発行
5 月 2 4 日	第 7 回 NPO 法人 WIN コンコर्ट 総会・交流会
6 月 2 7 日	紀州ぶんだら踊り練習
8 月 1 日	紀州ぶんだら踊り・パーティー
9 月 1・2 日	「和歌山の世界遺産を学ぶ」
9 月 2 6 日	竹灯夜 in 妹背山
1 0 月 4 日	第 24 回故郷を語る集い
1 0 月 8 日	国立ワルシャ室内歌劇「魔笛」
1 1 月 2 日	劇団四季「クレイジー・フォー・ユー」鑑賞
1 1 月 2 1 日	卒業生との就活懇談会
1 1 月 2 2 日	大学祭模擬店への協力
1 2 月 2 3 日	八朔狩り・鍋パーティー
2 月 1 6 日	会社見学 ㈱島精機製作所

年 間

- ・就職活動に向けた勉強会の実施
- ・日本語及び日本の歴史・文化等の学びを支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・留学生活動（卒業アルバムの作成・大学祭の模擬店）の協力
- ・ホストファミリーとして支援

就職活動での体験

孫 萌萌（中国）

時間が経つのは早いんですね。初めて和歌山大学へ行った頃の光景はまるで昨日のここのように思います。この二年間の就職活動を振り返ってみて、一番印象に残ったことの一つはインターンシップ体験です。インターンシップへ参加してみたいと思った動機は、社会の仕組みと社会人として働くことがどのようなものなのかを知り、人見知りを治して積極的になり、就職活動の第一歩を踏み出すためです。そして自分が興味を持っている仕事は本当に適しているのか、自分のことをもう一度見直してみたいと思いました。

私は、院生一年生の夏休みに和歌山県経営者協会の主催するインターンシップに行かせていただきました。2週間ほどお世話になり、とても良い体験ができ本当に感謝しています。

振り返ってみると、インターンシップでの仕事内容は多岐にわたり、Uターンフェアの準備からセミナーへの参加、企業訪問の同行と多くのことを経験させてもらいました。

毎年、和歌山県経営者協会でインターンシップの参加者は3～4人だそうです。しかし、今回は私一人なので何を話せばいいのか、マナーはどうすべきか、そもそも相手の意味をきちんと理解できるかどうかなどを心配して、研修初日は本当に緊張しました。しかしながら、周りの皆さんが親切にしてくれたので、数日を経て状況は以前より大変良くなりました。

「きのくに人材Uターンフェア」の運営に携わったときは、事前準備の重要さと事後分析の大変さが分かりました。この活動に来てくれた求職者の実際の姿を見て、就職活動に向けて現実的なイメージを持つことが出来るようになりました。自分の日本語と自己PRなど、まだ足りない部分を認識し、また勉強し直すことが必要だと感じました。次の年は私が反対の立場に立つので、そのモチベーションにもなりました。

和歌山県経営者協会では、毎朝、新聞の読み合わせをすることによって社員達とのコミュニケーションを円滑にし、相手の話を丁寧に聞いて相手が話しやすくなるような雰囲気作りをします。そして、私も相手にわかりやすく話をすることを意識するようになりました。今日の生活においてもこの意識をもって接しています。



ビジネスマナーでは、身だしなみからお茶の出し方や電話のとりつぎ方まで教えて頂きました。今後は、社会人として働く時も、私生活においても心掛けて、自信を持って日本の方と接することができるようにしたいと思います。

企業訪問はとても貴重な経験でした。「テレビ和歌山」では、普段入れないスタジオとニュースの生放送を見せて頂いて、その場の雰囲気がよく理解できました。特にニュースの生放送では「10、9・・・2、1」という指示を聞きながら話す時の緊張感と、残りの時間に合わせて話すスピードを調整したりすることなどに感心しました。また、ニュースに合わせて放送する映像を切り替える操作をする人の機敏な動きにも感心しました。私も本番に向けた準備や練習を怠ってはいけないと思いました。

和歌山電鉄の貴志駅への訪問では、猫駅長の「たまちゃん」に会えたとし、ずっと寝たまゝの状態だったけれども本当にうれしかったです。しかし、写真を撮る時はどうしても床が写るので、この点は改善して欲しいと思いました。

インターンシップを通じて多くの学びを得ることができましたが、同時に多くの「出会い」がありました。まるで新しい世界が目の前に現れると感じました。また、実際に体験するということを通して、教科書などを見ながら学習するのと、実際に現場に出て目で見てその場で教えてもらう事とに大きな差異があると感じました。自分自身もその本当の苦しみを経験したことで、この辛さに耐えながら働く両親や周囲の大人を思い、その人達のおかげで得ている今の生活に感謝するようになりました。

最後に、就職活動を通じて貴重な経験ができ充実した学生生活でした。このような機会に恵まれて本当にありがとうございました。

新堀保育園でのインターンシップ

姚 淑越（中国）

私は4年生たるものインターンシップをしなければならないと思っていた。しかし、外国人にとって日本で就業体験を経験することは簡単ではなかったのですと悩んでいた。そんな時、WINの先生が保育園の実習を紹介してくれた。

初めて日本で働くのでやる気が満々だったが、かなり不安にもなっていた。国によって、職場での規則やルールなどはやはり違う。だから私は他の人より倍も働くはずだと思っていた。さらに、先生たちや日本の友達からたくさんの意見をいただいた。例えば、「遅刻しないように」や「子供の名前の後に“ちゃん”をつけてください」など、全部きちんとメモをとって覚えていた。僅か2ヶ月間しかなかったのに、私にとっていろいろなことを学ぶことができた。

まず、日本語は前より上手になりそうだった。和歌山に住んでいるから周りの人はほとんどみんな和歌山弁で話し合う。しかし、私は学校で標準語しか学んでいないので、関西弁など全くわからなかった。標準語が話せないお年寄りとの会話はちょっと難しかった。けれども、この2ヶ月間の体験で普通の会話は大体わかるようになった。さらに、和歌山弁がどんどん好きになった。普段、友達と会話する時にも、時々和歌山弁が使えた。保育園の子供たちと先生たちのおかげで、日本の面白さを見つけた。

次に、今回のインターンシップの経験で日本の教育に触るチャンスが得られた。日本の教育をより深く理解するようになった。日本の子供たちは本当に要領が良いうえに、しっかりお礼が言えた。午前中は「おはようございます」午後は「さようなら」とお互いに元気に挨拶をした。ご飯を食べる前に「いただきます」食べ終わったら「ごちそうさま」と大きな声でお礼を言った。私は子供たちと交流した時、すごく印象的なことは子供たちの笑顔だった。彼らはいつも笑ってくれた。気持ちが良くなかった私は、そんな笑顔を見たら癒されてすぐ明るくなった。中国に帰った私はよく日本人の笑顔を思い出した。

今、私は幼稚園の教師資格を取るために本を読んで勉強している。中国の幼稚園と日本はやはり違う。中国の幼稚園ではゲームが中心となるが、日本では様々な活動がある。毎月、スケジュール



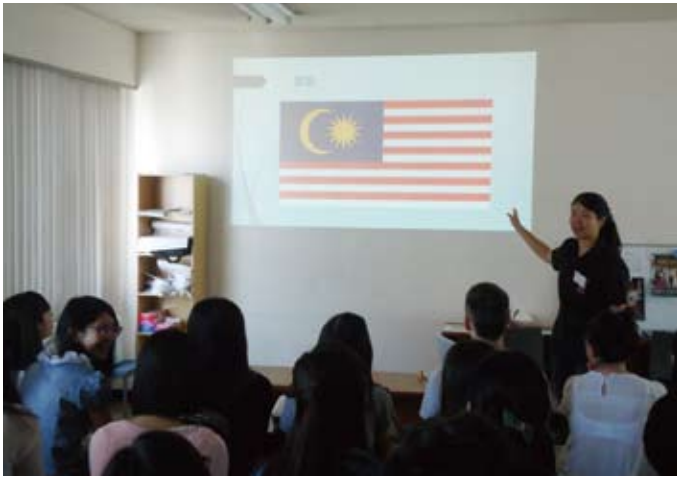
通りやっている。それは日本人が持っている手帳みたい。私がいた2ヶ月間にいろいろな活動が行われた。子供たちのおかげで、私は茶道や書道や国体練習などを体験した。子供たちと一緒に遊びながら日本の文化も詳しく理解することができた。なぜ伝統的な日本文化が引き継がれたかという疑問がやっと理解できた。その理由は、日本の子供たちが小さい頃から民族の伝統を守っていることだった。約五千年の歴史を持つ中国人として、どうやって中国の伝統文化を守っていくかをしっかり考えるべきだと思った。

その他、保育園で子供に英語を教えることもある。月に1回、英語の先生は保育園に来て30分くらい簡単な会話と子供の歌を教えたが、子供たちは真面目な顔でじっと先生を見つめていた。その時、私は自分の幼稚園時代を振り返ると、英語に関して少しも触れる機会がなかった。実は、小学校の三年生になって初めて英語を勉強していた。時代の変化につれて英語は国際公用語となっている。だから、中国の幼稚園でも英語を学ぶべきだと考えた。

最後に、「一期一会」という日本の諺がよく耳に入る。日本に留学する前、その言葉の深い意味はあまり分からなかった。しかし、いま日本の茶道、特に日本の生活を体験したら、「一期一会」という熟語がよく理解できる。

元の「一期一会」は茶会で使われる言葉だった。茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主とお客様ともにお互いに誠意を尽くす心構えを意味した。ですから、日本で出会った皆様を大事に扱う。特に、保育園で付き合い合った先生たちと子供たちを決して忘れないように生きていく。この2ヶ月間、本当にありがとうございました。





W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>